

# 輝

# かがやき

第22号

発行 平成23年10月16日  
茨城県立図書館  
ボランティア協議会広報委員会  
文責 上原 富男

## — 目次 —

- 1 ごあいさつ
- 2 「3.11」あの日... 県立図書館では
- 3 大震災後のボランティア活動 — 図書修理ボランティア活動に参加して —
- 4 「金曜15時前」から半年
- 5 大地震の罹災状況
- 6 全国巡回朗読セミナーに参加して
- 7 ボランティア協議会から
- 8 館職員の異動 — ボランティア関係職員の異動 —

9月10日 県立図書館が再開しました

10月30日(日)

いばらき読書フェスティバル 2011 です

## 1 ごあいさつ

館長 猪瀬 幸己



4月16日付で着任いたしました猪瀬でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

この度の震災におきましては、

被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げます。また、当館も半年の休館を余儀なくされ、皆様の活動の場を提供できなかったことにつきまして、たいへん申し訳なく思っております。

休館中は、利用者のいない図書館に寂しさを感じていましたが、おかげさまで9月10日に通常業務を再開し、図書館本来の姿に戻ることができまして、利用者やボランティアの皆様と同じく私自身、喜びとともにやりがいを感じています。

震災では、建物が大きな被害を受けた

ほか、図書資料につきましても約1,300冊の修理が必要となり、図書修理ボランティアの皆様にはたくさんの図書を修理していただき、たいへんお世話になりました。図書修理ボランティアの皆様の高い技術と和やかな雰囲気、当館ボランティアの質の高さを実感しました。他の分野の皆様も、生き生きと、そして熱心に活動されています。図書館といたしましても、皆様の活動のための環境整備を図ってまいります。

世の中は、電子媒体をはじめ、さまざまなメディアを通じて情報が飛び交う状況ですが、読書を通じた生涯学習や人間教育は不変のものであると確信しています。ボランティアの皆様方には、県民の読書活動推進、高度かつ多様なニーズへの対応、そして何よりも皆様お一人お一人の“生きがい”のために、今後もお協力賜りますようお願い申し上げます。

## 2 「3.11」あの日..... 県立図書館では

千年に一度と言う地震に皆様は何処で遭われましたか？私達、図書修理ボランティアは図書館のボランティア室でこの地震を経験してしまうことになりました。その後続いた津波・原発事故とともに東日本大震災と名付けられ、身近なところでは停電、断水と続いた毎日でしたが、今回は、地震当日のボランティアの被災のありさまを、かい摘んでお話ししたいと思います。

.....

毎金曜日が活動日の図書修理ボランティアですが、当日も午前中から始まり昼食をはさんで午後の作業も順調に続き、楽しいお話を交わしながらの手作業中.....

と、そこに地震が起きました。

『いつもの地震だわね！』と、一瞬思いました。でも、今回はすぐに揺れの大きさが尋常ではない事を皆が感じ取っていきました。



横揺れが激しく、作業台の机も動き出してぶつかり合い、棚もぐらぐら傾き、ロッカーの上のダンボールや小物類が次々と落ちてくる状態でした。『これはいつもの地震ではない！』皆で顔を見合わせて『大きいよね、どうする？』揺れが大きい上に長く続いて、皆立ち上がっ

たり、揺れでしゃがみこんだり。また、落下物や倒れてくる棚から身を守るために、机の下に入り込んだり。

『出られなくならないようにドアを開けて！』その声でドアを開けた一人が、1, 2階の図書館内の動きに初めて気付くことになりました。『外に避難するように職員が叫んでいます！』ボランティア室には放送が入らなかったのか、避難誘導の声が届かなかったのです。

『では、私達も避難するべき？でしょうね！』そこで、何人かずつ廊下に出たのですが、目の前でエントランスホール天井ボードが落ち、部屋のドア上部が壊れていくのを目撃しました。この天井ボードが落下したり、廊下の壁や天井が軋むことで、白い粉が当たり一面に舞い上がり、火事の煙かと錯覚してしまうほど、廊下を歩くのも難しいほどの絶え間ない地震の揺れで、這うようにエレベーターホールへ。

そこで会えた職員から『大丈夫ですか？裏の階段から外へ避難してください！』との指示を受けることになりました。

図書館内には引切り無しに緊急放送が流れ続けますが、『火事です！避難してください！』の放送のみ、事務室側の裏階段を下りていくのにも、続く揺れでまっすぐ歩けなかったり、しゃがみこんで揺れのおさまるのを待ったりで時間をかけざるをえない状態でした。

皆で声を掛け合い、ほうほうのていで裏口からやっと外に出るまで、10分かかったでしょうか？表玄関側に図書館利用者や職員が集まっていたので、合流しましたが、頭に怪我を負った警備員の方がうずくまっていたのを見かけたときの恐怖感！また、次々と付近の会

社員が三の丸広場に避難して来て、見る見るうちに広い広場が人でいっぱいになるさま、あたりを救急車の音が鳴り響く騒々しさ、度々起こる悲鳴！その間、周りの建物が揺れるのも見えるし、最上階にある明り窓が音高く壊れるのも目撃、いつの間にか、ずれて盛り上がっている広場の敷石など現実ではないような状況でした。

修理班の最後のふたりがボランティア室を出たときには、ロッカー、エプロンボックス、机そして重い修理道具のプレス機まで倒れ、その中をやっと抜け出したという話を聞いてあらためてギリギリの避難だったことにゾッとするばかりでした。

そのときになって其々の家族のことを心配し始めるものの、鳴り響く携帯の緊急信号音と、繋がらない携帯通話、まだまだ揺れの続く中での周りの皆の顔色、顔つきの異常さ……。30分もたったころでしょうか、やっと揺れが収まり

始めたので、まずは帰宅しようと図書館職員と話し合い、荷物を取りに図書館に入ろうとしても、中は危険との事で立ち入り禁止になってしまい、そのまま解散となりました。でも、ここで何も持たずに外に避難した者も数名いることが判明し、コートも着ずに出たり、車のキーも持たず、バッグも、携帯も持たず……。結果はジャケットを借りて4時間かけて歩いて帰宅した者もいました。車に乗り合って帰るものの渋滞に巻き込まれる者、こうして震災当日は真っ暗な我が家にかたどり着いたのでした。

・・・・・・・・・・・・・・・・

このような震災は二度と経験はしたくありませんが、覚悟・準備しておくためにも、常日頃から非常時にはどのような行動をとるべきか、何処が避難経路になるのかを学んでおかななくてはならないと痛感することになりました。

〔図書修理ボランティア一同〕

### 3 大震災後のボランティア活動

— 図書修理ボランティア活動に参加して —

館内サービス課

木村 清一

3月11日に起こった東日本大震災で被災した当館は、9月10日までの約半年間、休館せざるを得なくなりました。その被害は建物の破損だけでなく、所蔵する資料にも及びました。棚からの落下や他の資料が重なることにより、図書の背が裂けたりページや表紙が破れるなど、震災が原因で修理が必要となった図書資料は1,300冊以上にもなります。開館時、できるだけ震災前の状況に近づけるようにするため、休館中に図書資料の修理を急いで行う必要がありました。

そのような中、6月24日から他のボランティアの方々に先行し、図書修理ボランティアの方々に活動していただくことになりました。早急な図書修理が必要であったため、建物工事前・工事中の騒々しい状況の中、無



理を押し活動していただき図書修理ボランティアの皆様には大変感謝しております。

また、通常の活動とは異なり、図書館職員とともに修理をしていただきました。これは、図書修理ボランティアの活動日である週1回金曜日だけでは1,300冊以上の修理は間

に合わず、その他の日にも職員が継続的に修理に取り組む必要があり、図書館職員の修理技術の向上が急務であったためです。図書修理ボランティアの方々からの温かいお申し出もあり、図書資料の修理技術を教えていただきながらの活動となりました。

6月24日の活動初日には、活動場所の空調が効かず、ボランティア・職員共々参加者全員汗だくの中、活動を行いました。また、空調が直っても、節電の関係でボランティア室は使用できず、隣の会議室に図書資料や修理道具を活動の都度、運ばなければならないなど、活動には厳しい環境でした。その上、震災による建物の被害が大きく、エントランスホールへの立ち入りは制限され、活動場所の壁にひびが入っているという状況で、図書修理ボランティアの方々には、いつにもまして急ピッチで修理を行っていただきました。

そのような中、休館中の8月3日には、東京から日本図書館協会の図書修理ボランティアの方々来館し、当館のボランティアの方々と同様に当館の図書資料の修理を行いました。多くの図書資料の修理が進んだこともさることながら、普段、あまり接することができない他の図書館の修理方法を見ることができ、当館の修理方法に取り込むことで

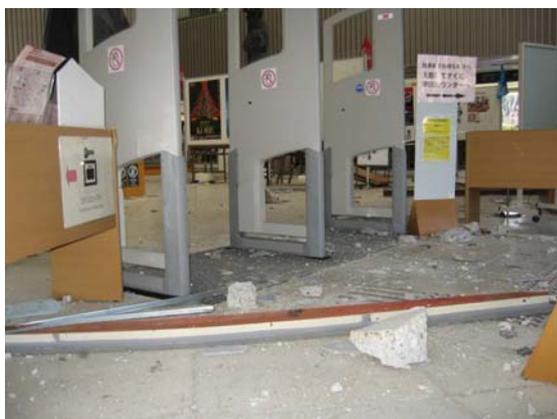
修理の幅が広がったことが大きな収穫でした。また、日本図書館協会の図書修理ボランティアとして参加されていた東京都立図書館や埼玉県立図書館の職員の方々もそろって、「茨城県立図書館の図書修理ボランティアは、意識と技術がとても高く、しっかりと活動されてうらやましい。私たちの図書館でも参考にしたい。」とっていました。当館のボランティア活動は、他館からもうらやましがられるほど盛んで、しっかりと活動されていることを改めて実感しました。

このように、休館中の図書修理ボランティア活動は8月3日も含め10日間、修理した図書資料は766冊に及びます。また、活動日以外は職員が修理を進め、約1,300冊あった修理が必要な図書資料は、その9割近くが9月10日の開館までに終わりました。

ボランティアの方々の活躍は当館にとってなくてはならないもので、当館はボランティアの方々によって支えられている、ということは常々言われていることですが、今回、一緒に活動し、その意味を本当に実感できたと思います。今後、ボランティアの方々が活動しやすいよう、図書館の一職員として支援をしていければ、と思いました。

## 4 「金曜15時前」から半年

警備員 人見 徹



地震だ。足下が揺らぎ、天井が鳴り、展示物が倒れていく。出口を確保しなくてはと思います、自動ドアのスイッチを手動に切り替え、ドアを開けた。動揺していたのか、ドアを支

えながら誘導していた。

防火扉が閉まり、利用者の方が続々と出口へ。自分はだんだん中央階段の下のほうで誘導していた。

3階の通路から、職員が何か大声で言っている。しかし、聞こえない。また出入口のゲートの所に戻って誘導を始めると、天井からの落下物が頭に当たり、意識が飛んだ。利用者の方がロータリーの縁石の所まで運んでくれる。もう動けない。替わりの警備員を呼ばなくてはと思います、携帯電話で警備会社に電話をしたが、つながらない。余震が起こり、図書館の建物が揺れる。職員が建物から離れ

るように指示を出す。近くにいた職員に「駐車場を・・・」と言ったら、何人かの職員がもう見てくれているとのこと。それからは現場を離れてしまったので、どうなったのかはわからない。

あれから半年。再オープン後、入館してくる利用者の方々には「良かったね」「待ちに待っていたよ」と言われる。先日、出入口ゲ

ートの前で手を合わせてから入館された方、総合カウンターの前で涙を流しながら「図書館再開おめでとうございます。ほんとうに良かったですですね。また利用させてもらいます」と言ってくれた人など、多くの人たちがこれだけ待っていたんだなあ実感している。何でこんなに思いが深いのかと思う。

## 5 大地震の罹災状況

副館長 佐川 美代子

その日、1階ブラウジングコーナーで三木係長と椅子を張り替えるためのデザインを相談していた。ある程度方向性が決まったので3階事務室に戻った途端、異様な揺れが始まった。ただならぬ大きな揺れで、物が落ち出し、ロッカーが動き、エントランスもバラバラと壁などが落ち、その埃のため火災報知器も鳴り出し、防火扉も閉まる。利用者が正面出入口から走り出るのが見えた。コンクリート片を頭に受けて警備員の人見さんが倒れており、男性が何人かでロータリーの方に運び出した。各部屋の職員は、利用者にまず書架から離れるよう注意を促し、次に非常口から誘導してロータリーに集合し、約300人の利用者等に怪我人のいないことを確認した。

救急車を呼ぼうにも携帯が繋がらず、三の丸庁舎から車いすを借りて人見さんを病院へ連れて行く。病院も中から避難してくる状況で点滴しかできず、翌週、別の病院で検査したところ脳挫傷と硬膜下血腫で、1年間は様子を見るようにとのことであった。(現在は職場復帰している。)

大きな地震が全部で4回あり、建物が大きな音を立てて揺れているため、危険で近づけないままかなり時間が経った。しばらくして揺れが収まってきたため、利用者の荷物を取りに入るのに三の丸広場に避難していた会社の方々からヘルメットをお借りし、荷物を運び出し、帰路についてもらった。その後に職員の荷物を出し、やっとコートを羽織るこ

とができたのは夕方であった。地震の詳しい情報も不明で、家族との連絡もつかず、帰宅しようにも車は動かず、電車利用の職員も駅が被災して入れないと図書館のほうに戻って来た。

館内では約25万冊の本が落下し、天井パネルも落下、ガラス製の防煙たれ壁が本の上に散乱した。その後、書架に戻す際、1冊1冊埃とガラス片も落としながらの大変な作業となった。修理本は1,300冊にのぼった。——その後の修理における図書修理ボランティアの皆さんのご協力に感謝します。



耐震工事済でも建物の被害は大きく、半年もの閉館を余儀なくされたのは辛かったが、まだ修復できない施設に比べたら有り難いことである。唯一、利用者に怪我人が出なかったことが幸いであった。

## 6 全国巡回朗読セミナーに参加して

私は、震災の2日あとの日曜日に代読サービスボランティアをする予定でした。

図書館に電話連絡したところ、図書館の被害も大きく、しばらくは休館になるとのことで、ボランティアも当分できなくなると思っていたとき、(財)NHK放送研修センター日本語センターが主催する全国巡回朗読セミナー・水戸へ参加のお誘いが舞い込んできたのです。

今回の水戸会場〔9/2(金)：県民文化センター分館〕は、初心者向けAコース講座がないので、少し冒険でしたがBコースの受講の申し込みをしました。当日は、台風12号が来ると警戒していましたが、水戸はほとんど影響もなく青空がみえていました。台風のために、前日から水戸に来られていた伊藤文樹アナウンサーが主任講師でした。

今回のBコースの主なねらいは「組み立てて読む」という内容でした。

聞き手に作品の内容を届けるために、読み手はただ単調に平板に読むのではなく、内容

に応じた変化が表現できて初めて、聞き手は作品世界に触れることができる。そのための工夫の仕方を須賀敦子、湯本香樹実、有島武郎の作品を使用して、トレーニングをしたのです。

- 出だしの音を考える
- 段落と「間」の変化
- 緩急を工夫する
- 現在形の表現
- 会話文と地の文
- 息を使う
- 豊かな朗読表現をめざして

のそれぞれの項目に沿って、9:30～16:30の講座時間があつという間に過ぎたと感じたほど、丁寧に指導していただきました。

再開した図書館で、3.11の津波の高さを実感することができました。今年は自然災害のなんと多い年でしょう。図書館が再開し、代読サービスをいたしております。うれしいことです。

〔代読 土屋 純子〕



## 7 ボランティア協議会から

ボランティア協議会(7/30 開催)にて、H23年度の役員が決定しました。サポートする館の担当職員を含めての構成を記載します。(詳細はボランティア全体会での配布資料を参照下さい。)

会長:上條哲	副会長:上原富男	会計:黒沢英宣	監事:木村澄子	担当職員:篠山正史
	運営委員会委員長	副委員長	館担当職員	
代読サービス	上條 哲	高根沢 洋子	篠山 正史 (対面朗読)	小倉 由起子(録音図書)
児童サービス	西村 洋子	佐藤 ひろみ	檜村 尚美	
資料配架	吉田 善克	古川 尚子	千葉 一夫	
三の丸書庫	黒沢 英宣	木村 澄子	寺田 雄一	
広報	上原 富男	小田部 和子	根本 政世士	
郷土資料整理	山崎 弘道	辻 雅子	長山 尚子	
外国語資料整理	小林 雅子	河村 日佐男	矢澤 美津子	
図書修理	近藤 淑子	山岸 美佐	木村 清一	
特技を活かしたもの	福田 陽一	山崎 弘道	佐川 美代子	

## 8 館職員の異動 — ボランティア関係職員の異動 —

3月末・4月初に館職員の異動がありました。ボランティア関係職員の異動について記載します。  
(詳細はボランティア全体会での配布資料を参照下さい。)

### 〔退職〕

館長 千葉 正仁

### 〔転出〕

普及課

主査兼課長	岩松 邦男	かすみがうら市立牛渡小学校へ	
副主査	中山 隆裕	茨城県近代美術館つくば分館へ	イベント担当
社会教育主事	廣原 幸子	つくばみらい市立東小学校へ	代読サービス担当

企画管理課

係長	堀 昭則	茨城県立勝田工業高等学校へ	環境美化担当
----	------	---------------	--------

### 〔転入〕

館長 猪瀬 幸己 茨城県教育庁福利厚生課より

普及課

主査兼課長	東ヶ崎 洋一	牛久市立奥野小学校より	
主査	寺門 巧	茨城県体育協会より	三の丸書庫担当
社会教育主事	篠山 正史	茨城県立下妻養護学校より	代読サービス担当

企画管理課

係長	石川 秀一郎	茨城県水戸生涯学習センターより	環境美化担当
----	--------	-----------------	--------

館内サービス課

係長	木村 清一	茨城県教育庁文化課より	図書修理担当
----	-------	-------------	--------

▽▽▽ ボランティアの皆様 よろしく ▽▽▽ 普及課長 東ヶ崎 洋一



4月1日の定期異動により学校現場から普及課長として赴任致しました。私が3月まで勤務していた牛久市の学校では、市立図書館の資料搬送便を積極的に利用していました。

教師が授業に使う本や子どもたちに読ませたい本を、学校司書を通して揃えられて、とても先進的で便利なシステムが確立していると感じていました。県立図書館勤務の初日には、普及課の業務として、県内の全市町村を対象に資料搬送便があると説明されました。当然のことですが、自分の今度の仕事は全県を対象にしたものだと改めて気付き、身が引き締まったのを思い返します。

県立図書館において、この度の震災からの復旧には約半年の月日を要しましたが、9月10日に再びの開館を迎えることができました。それまでの間は、県民の皆様から開館

を待ち望む多くの声が電話等で届けられ、いかに県立図書館が県民から愛されているのか、再確認をする時間でもありました。

開館に合わせて企画展をとという館長の命のもと、各課からプロジェクトメンバーが集まり「茨城3・11から復興へ」の準備を休館中に進めました。

県立図書館の開館に際しては、多くのマスコミの取材がありましたが、「茨城3・11から復興へ」の内容も多く取り上げて頂き、企画の一応の成功にメンバー共々安堵したところです。

23年度も半年が過ぎました。「明るく便利な、開かれた図書館」づくりのため、私も微力ながら、普及課の仕事である読書活動の推進、市町村支援、普及啓発事業の実施などを通して力を尽くしていきたいと考えております。ボランティアの皆様におかれましても、ご協力を頂くことが多々あると思っております。よろしくお願い申し上げます。

『ほぼ楕円形のテーブルを前に、まだ幼さが残る5人の中学生。館長室の天井の照明は、3列の真ん中の3基だけが俯いている中学生達の油気のない髪の毛を照らしていた。この日、3月11日午前9時に2人の教員に引率されて来館した5人である。高校入試の合格発表があった翌日のこの日は、社会奉仕という形で当館を訪れていた。午後2時からの反省会で5人目が反省の言葉を口にした時に突然として床や壁が揺れた。この建物は耐震もしっかりしているから心配ないと言い始めた時、尋常ではない揺れが来て、5人はテーブルの下で子猫のようになり、壁では時計が円を描き、天井からは照明カバーがぶら下がってきた。館内を見渡すと、粉塵で白いスクリーンの中に見てはならないような光景がここかしこに起きていた。揺れが収まるのを待って5人を避難させる時、3階のエレベーターホールで誰かを誘導するかのようなボランティアのKさんを見ることができた。これが私の館内で、活動中のボランティアさんを見た最後である。この午後2時46分からの短いような長いような時の経過が、その後半年以上も続く復旧への始まりであった。そして、私はほぼ3週間後に6年間お世話になった県立図書館を最後に公務員生活に終止符を打った。』

皆さん御無沙汰しております。思い起こせば6年前の桜がほころびを見せた時から、皆さんとのお付き合いが始まりました。そして、私にとって初めての三の丸ふれあいまつりへの参加などを通して、新鮮でやりがいのある図書館運営の序曲が響くことになりました。11分野に200名近い皆さんとともに仕事ことができましたこと幸せでした。私が退職してから約半年は休館状態が続き、現職のような気持ちで春夏を過ごしてきました。そして皆さんに支えられて9月10日を迎えることができましたこと、嬉しいだけでなく肩の力も抜けた気分でした。また、9月19日の「希望の調べ」は前年度からの企画であり、眠りから覚めた図書館を実感しました。皆さんとの6年間の交流を書き始めると長編ドキュメンタリーが完成してしまうので、私の気持ちだけでもおくり取りいただければ幸いです。

結びに、新館長の基で、世界の扉を開く図書館そして自治体の良心である図書館として頑張っている県立図書館へのご協力を引き続きよろしく願いいたします。私もサーターとして頑張ってお参ります。本当にありがとうございました。

“グリーンエプロンに感謝”

## — ◇ — ◇ — 編集後記 — ◇ — ◇ —

大震災の発生からちょうど半年後となる「9.10」に図書館が再開された。お壕の桜の蕾が膨らんだ「3.11」に未曾有の大震災がおきた。再開した日、お壕には彼岸花が咲いていた。館にとっても、この期間はまさに「夏籠り？」となってしまった。地震・津波・原発事故、さらには風評被害、これでもかといわんばかりの、天の力にはなすすべをもたない私たちである。2001年アメリカNYでの『9.11』、2011年日本の『3.11』千年に一度の大災難といわれるが、とんでもないことが、10年でおきてしまったことを考えて、常日頃の心構えをしっかりとっておきたい。今回の「22号」は大震災特集で発行することとなった。

館職員の方からの投稿も多くいただいた。特に館関係では唯一の負傷者である人見さんからの手記、当日活動中だった図書修理ボランティアの方からの報告は身にせまるものであり、「想定外でした！」ではすまずことができない。「震災は忘れた頃にやってくる」古い格言ではあるが、震災当日、館内で大変なことを経験され、本号での「語り部」として寄稿していただき、本当に有難うございました。



〔広報 上原 富男〕